

# 連珠つておもしろい

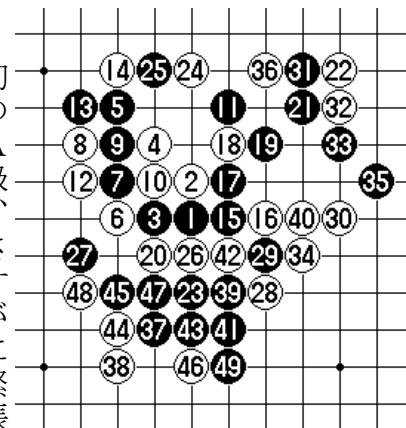
第135回

## ■衝撃の初優勝！

だが、今回は汪七段の局を振り返つてみたい。

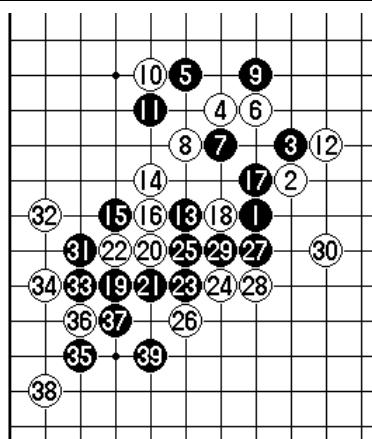
したのだろう。結果的に緒戦の真野戦が勝つた局の中で一番でこすつたようだ。黒27までもたもたしていながら、黒37から何とか手を作つて49まで勝ちにたどり着いた。最初の一局を勝つて落ち着いたのだろう、それからの局は強さを發揮した。

続く第2局。この局で驚いたのが五珠交替の10題スワップが出たことだ。日本ではまず出ないだろうと



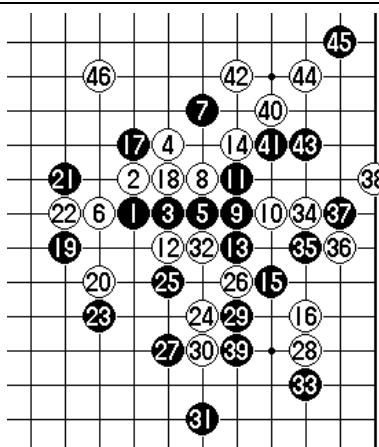
思つて いたが、この A 級で  
6 局も 出て いる（そのうち  
の半分は 汪さん が 打つてい  
る）。

黒19では20や21に打ち  
つのが彼女の感覚でもある  
白26は一路下に（夏止め  
で）防ぐのが良かつたが、  
そう打つても展開できる構  
想はあつたのだろう。  
続いて第3局。強豪牧野



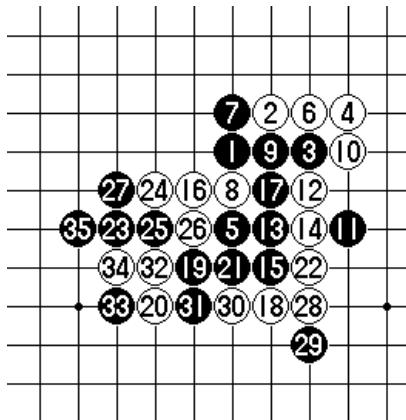
これで初日2勝1分と早くもトップに立つた。ただ、汪さんは後半に強豪相手にあたるのでまだまだと思つていた。

黒23まで白有利に展開しているが、私が感心したのは白24の手。普通なら29と剣先を止めると思うのだが、剣先よりも盤面を支配する手を選んだと言えるだろう。なるほど、こういう手を打つて勝つのか、と感心した。

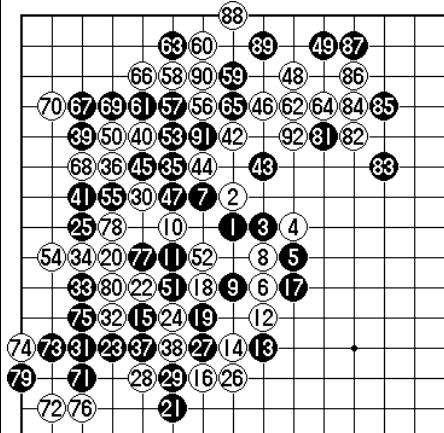


さんとの一戦である。黒の  
趣向を堂々と受けて立ち、  
楽々満局に持ち込んだ。

白16は焦点止めが絶対  
ということは広く知られて  
いる。館君がそれを知らない  
かつたのは意外だが、当然  
この時の勝ちも知っている。  
一見勝ちがないように見え  
るが、黒23が勝ちを決める  
一手。通常流星とは二路距

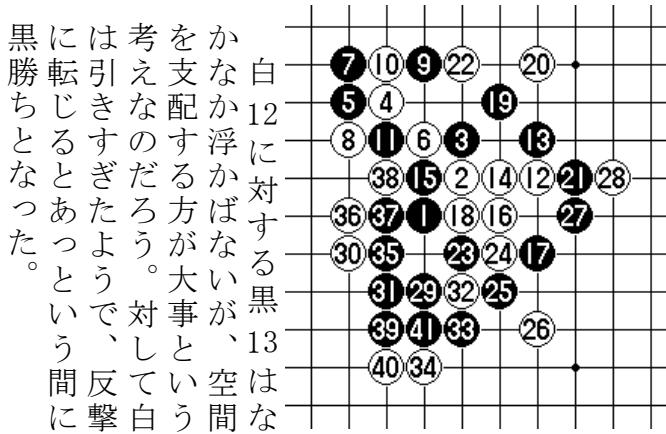


2日目に入り、ますます冴えてきたようだ。まずは館戦。この局も注目だつた。なぜなら、流星の難型に戻つていったからだ。何か新しい作戦があると思つたが、白が防ぎ間違えたのであつといふ間の終局となつた。

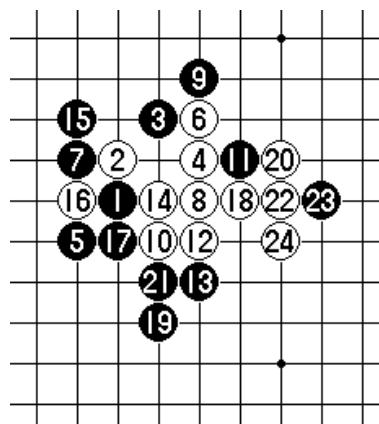


離が違うので、そこに何か新作戦があつたものと思われる。こういう所を突くのは作戦としては優秀である。続く久家さんに勝ち、中山君に負けたものの、2日目を終わって<sup>4.5</sup>勝でトツブに並んだ。ただし、同星で4人が並ぶという大混戦となつており、汪さんは残りの対戦相手がキツイな、と思つていた。

しかし、である。最終日3連勝で中山君らを抜き去つてしまつた。あつぱれといふほかはない。白黒松田汪



第7局は松田五段。東日本地区2次予選では汪さんが勝っている。白番の時も牧野戦同様、厳しい手を打つてくる。中盤以降黒を振り切つて最後は四々禁で仕留めた。



第8局を終わつて中山君  
と汪さんが同星でトップを  
並走した。ただ、汪さんは  
最終戦岡部九段との一戦で  
まだまだ簡単ではないと思  
つていた。